

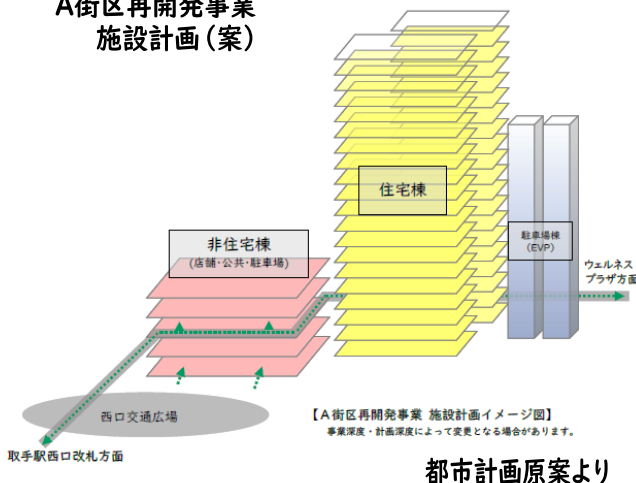


## 取手駅 西口開発

# 魅力と活力のある駅前は市民合意で

日本共産党

A街区再開発事業  
施設計画(案)



取手駅西口開発は、区画整理と再開発の合併施行が事業全体を遅らせ事業費を拡大する要因となりました。土地利用でも身の丈を超えるサイクルステーション等、様々な課題を残しました。

A街区(0.7ha)の民間施行の再開発事業で、西口開発は全て終了する予定。しかし、地権者合意が整わず再開発参加は20人から7地権者(0.5ha)に減少し、計画の変更が迫られて来ました。

A街区再開発の説明会と合わせ、議会等での市の答弁・報告などから現状の問題点の一部をお知らせします。

市は、昨年10月に市民説明会と公聴会を行い、今年2月に予定していた都市計画決定は停止、都市計画原案の変更が迫られていました。

変更後の「都市計画決定原案」説明会は、10月11日に開催しました。

前回の日時を変えて市内3か所で行われたのと違い、今回は1日のみ1か所、1時間半に省略しての実施でした。

## 「A街区再開発」説明会開かる

変更都市計画決定(原案)

## 市民最大の関心事「複合公共施設」

### 質問に「議題外」と答えず

説明会では、「再開発事業に含む図書館等複合公共施設計画の報告を期待して来た」「計画変更で、西口デッキから再開発ビルをつなぐ歩行者デッキの作り直しで無駄に」「工事費の増額、工事延長が心配」

等、公共施設整備に関する質問・意見が大半を占めました。

市は、「図書館等の計画」は議題外として答えず。「なんの説明もなく期待外れ」の感想も寄せられています。

### 「時間です」と質問打ち切り

再開発そのものの質問にも「予定の時間です」と打ち切りました。市は、導入予定の複合公共施設について、再開発事業と「一体不可分」のものとしており、説明放棄は

許されません。

「説明責任果たさず」市民不在の進め方が事業行き詰まりの最大要因ではないでしょうか。

### ■ 先行き不透明な中でデッキ延伸

「A街区再開発ビル」と西口デッキを結ぶ計画は、取手市施工の区画整理事業で、歩行者デッキを23m延伸(工事済み)。その先の再開発ビルへの接続は、再開発事業

(組合施工)の中で行う計画でした。

再開発計画変更で整備済みの延伸デッキは再開発事業には不要となりました。

### 取手駅西口「A街区再開発」

#### 施設計画概要

(都市計画原案説明会資料より)

	令和7年10月(変更後)	令和6年10月(変更前)
主要用途	住宅・商業・公共公益・駐車場	
全 体	階数地上21階建て	
	延べ床面積：28,200㎡	30,800㎡
非住宅棟	階数 1～5階	
	専有面積：約5,000㎡	約7,100㎡
住宅棟	階数 2～21階	
	専有面積：約18,000㎡	約14,000㎡
	計画戸数：約250戸	約200戸
建築面積	2,700㎡	3,700㎡
建築敷地面積	4,900㎡	5,800㎡

概算事業収支

支出金(概算) 約187億円

収入金(概算) 約187億円



国道6号方面へ延伸工事済みの行き止まりの歩行者デッキ



再開発ビルと西口デッキを結ぶ新たな歩行者デッキを計画する交通広場

### ■ 計画変更で巨大化する新歩行者デッキ

交通広場の上を通す予定の歩行者デッキ新計画は、延伸距離が長く、交通広場に新たな橋脚設置など難工事は必至です。建設資材等高騰もあり、巨額の整備費(取手市

費用でと市答弁)が予想されます。

歩行者デッキ延伸と新たな場所への再整備へ、公共事業の2重投資を招く等、市の責任が厳しく問われます。



## 西口一極集中の過大施設

### 稼働率50%・サイクルステーション



取手駅西口サイクルステーション

平成 26 年度使用開始の取手駅西口サイクルステーションは、計画当初から、「人口・通勤者の減少が見込まれ過大施設」「周辺駐輪場事業者の淘汰につながる一極集中はやめよ」と、日本共産党などが厳しく批判。現在まで利用者は年々減少しています。収容可能台数に対する令和 6 年度自転車駐車場稼働

率は、機械式 456 台／45.9%。自走式 337 台／56.7%。バイクは 80 台／79.6%の稼働です。サイクルステーションの管理委託料 43,683,640 円／年に対し、駐輪場使用料は 14,190,960 円／年で、約 3,000 万円の持ち出しとなっています。

#### 運営管理の改善・効率化を

自転車駐車場は、自走式・機械式合わせ収容可能台数の約 5 割の稼働です。中でも機械式の利用者減少が続いています。市は、公共事業における過大施設が、後年度負担拡大を伴うことを今後の教訓とすべきです。

日本共産党は、市の責任において過大施設の運営管理の改善・効率化についての検討を求めています。

### サイクルステーションとりで（CST）歳入・歳出

歳入：自転車駐車場使用料 歳出：自転車駐車場管理業務委託料

	H28	H29	H30	R1	R2
歳入	18,322,610	18,719,410	19,613,460	18,454,120	14,580,140
歳出	33,593,400	32,139,304	34,405,560	34,008,081	39,514,200

・ R1→R2の歳出増・・・  
部品交換費によるもの

・ R4→R5の歳出増・・・  
部品交換費、人件費等の高騰によるもの

	R3	R4	R5	R6
	14,228,660	14,239,100	14,036,160	14,190,960
	38,781,600	38,781,600	44,105,160	43,683,640

※委託先：株式会社全日茨城（H26～）

取手市作成提供資料

## 念願の「公衆トイレ」 取手駅東口に現在工事中

「東口駅前に公衆トイレの設置を！」の声は駅利用者と市民の皆さんからの強い要望でした。

現在、地下通路東側に「公衆トイレ設置」工事が進められています。広さ100㎡、男女トイレにベビーチェア、他多機能トイレ（男女共用）も設置されます。令和8年4月から使用開始予定です。

完成後のJRからの賃借料は100㎡で183万円／年と見込んでいます。



現在トイレ設置工事中の取手駅ギャラリ―道路東口側出口（交番後側）

現在の西口の公衆トイレ（38㎡）は、東側の公衆トイレ完成後に解体し、賃借料98万2000円はそのまま払い続け、新旧合わせた賃借料は、300万円にもなってしまいます。

## 危険 過ぎる 高市自民維新政権

参院選の結果は、裏金事件に象徴される長年の「お金の支配」による政治のゆがみへの国民の審判でした。公明党の連立離脱は、この政権が政治的にも道義的にも行き詰まった証拠といえます。しかし、維新や国民民主党など「政治の受け皿」を名乗る勢力も、国民の願いに寄り添うことなく、混迷を極めています。

### 維新の「議員定数削減」は 民意を切る「改革詐欺」だ

特に維新は、かつて掲げていた企業・団体献金の禁止を降ろし「議員定数削減」とい

う「身を切る改革」なるものにすり替え、自民党との距離を縮めていますが、それは自民党の延命を助け自民政治をいっそう悪くするものです。

今本当に必要なのは、企業・団体献金を全面的に禁止し、憲法違反の疑いがある年間300億円を超える政党助成金（共産党は受け取りを拒否）を廃止するという根本的改革です。この立場に立つてこそ、国民の生活に寄り添う政治が実現できます。

日本共産党は、企業団体献金は一切受け取らず。

政党交付金は拒否しています。



ことし交付予定の政党交付金、共産党以外9つの政党に総額315億円余

国会議員削減による財政効果は、歳費・期末手当等の他3人の公設秘書給与合わせて一人7千万円程度。議員50人減らしても削減効果は35億円です。

## 井野公民館のエレベーター設置求めて ねばり強く要望 × 市 設置言明せず

令和5年3月議会で同趣旨の請願が、「改修予定がある」との理由で趣旨採択。

令和7年度予算に、エレベーター設置を含まない、「改修工事実施設計委託料」が計上されました。

利用者の皆さんと7月20日「エレベーター設置」を要望。教育委員会は「設置できるよう検討する」と消極的回答。9月議会の一般質問で、加増議員が繰り返し求めたが、「設置できるよう検討していく」と市の答弁は変わり

ません。

多くの利用者が「公民館にエレベーター設置を」と心待ちしている中、これからも全力で設置できるよう求めていきます。



改修に合わせエレベーター設置が求められる井野公民館